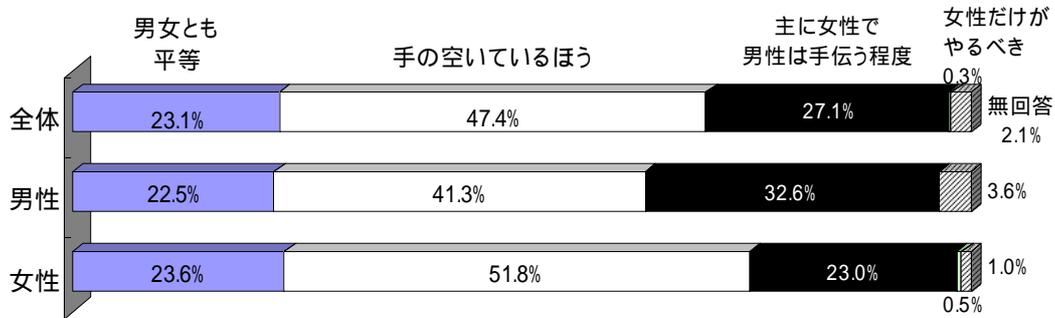
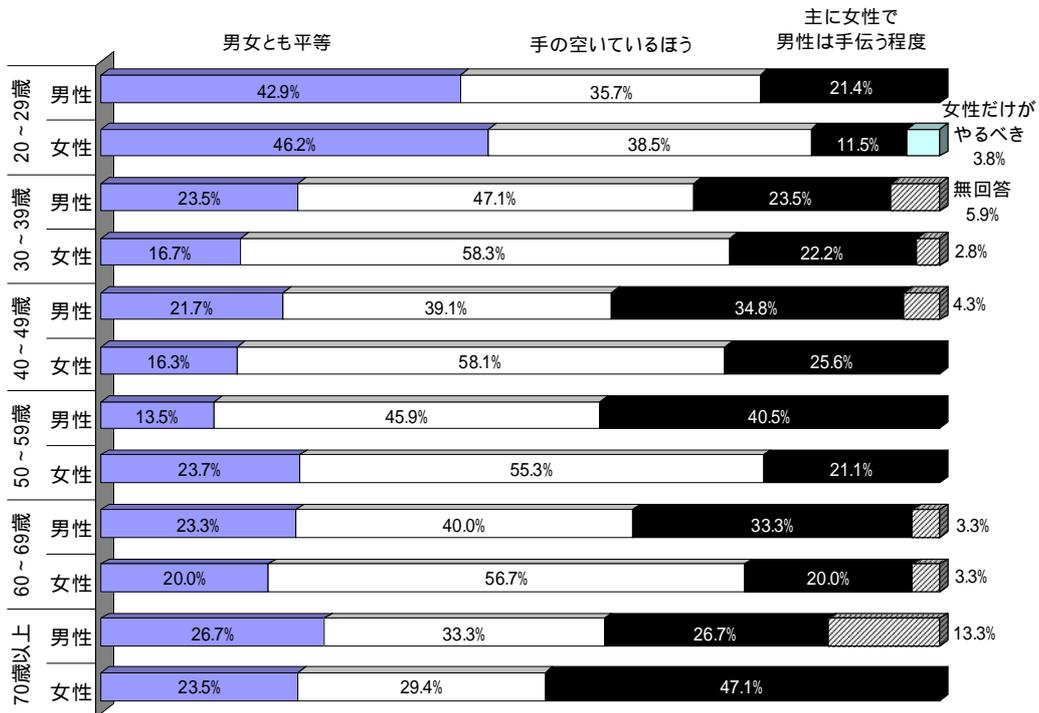


問4 家事や育児の役割分担について、あなたはどのように考えますか？

- 男女とも平等にするのがよい
- 手の空いているほうがやればよい
- 主に女性がやり、男性は手伝う程度でよい
- 主に男性がやり、女性は手伝う程度でよい
- 女性だけがやるべき
- 男性だけがやるべき

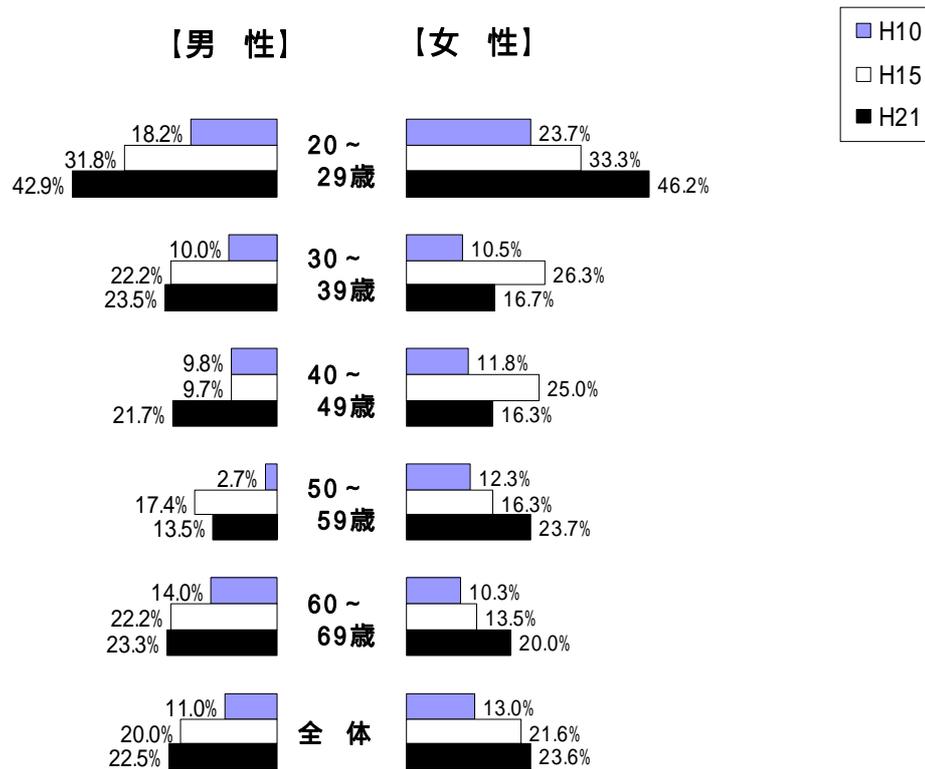


最も多いのは「手の空いているほうがやればよい」で、男性 41.3%に対し女性 51.8%と女性の方が多く回答しています。次に割合が多いのは、男性が「主に女性がやり、男性は手伝う程度でよい」32.6%であるのに対し、女性は「男女とも平等に」23.6%です。「男女とも平等に」と考える男性は22.5%で、女性とほぼ同割合です。



20代は「男女とも平等」の割合が男性 42.9%女性 46.2%と、男女とも全世代の中で突出して高くなっています。30~60代は「手の空いているほうがやればよい」が多く、また常に女性の方の割合が多くなっています。また 20~60歳代の「主に女性で、男性は手伝う程度」の割合は常に男性の方が多く、特に 40~60代の男女間の意識のズレが大きくなっています。

【「平等がよい」と回答した割合の比較】



全体に増加しています。目立つのは20代で、平成10年度調査では男性18.2%女性23.7%と男女とも2割前後だったのが、今回は男性42.9%女性46.2%となり、2人に1人が「平等がよい」と回答しています。当時も20代は他の年代に比べ高い割合でしたが、今回は更に大きく差を広げました。

男性が全世代で伸びているのに対し、女性は30, 40代の割合が下がっており、前々回よりはあがっているものの数値は低く1割台で、同世代では男性の方が「平等がよい」と考える割合が高くなっています。